

2016年度（平成28年度）事業報告
(2016年4月1日から2017年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 第57回日本神経学会学術大会を次のとおり開催した。

- ・大会長 梶 龍児 徳島大学大学院医歯薬学研究部医科学部門内科系臨床神経科学分野 教授
- ・会 期 2016年5月18日（水）から5月21日（土）までの4日間
- ・場 所 神戸コンベンションセンター（神戸国際会議場・神戸国際展示場）・神戸ポートピアホテル

(2) 学術大会運営について

① 第61回学術大会大会長を次のとおり選出した。

阿部康二 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科脳神経内科学・教授

② 第58回学術大会（大会長 宇川義一福島県立医科大学医学部教授）の準備を行った。第58回学術大会は、WCN2017の一部として同じ会場で並行して開催される予定である。

③ 第59回学術大会および第60回学術大会の運営を委託する会社の選定を行った。

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

北海道地方会（2回）、東北地方会（2回）、関東・甲信越地方会（4回）、東海・北陸地方会（3回）、近畿地方会（3回）、中国・四国地方会（2回）、九州地方会（4回）

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」56巻4号～57巻3号の全てを通常号発行した。また、学術大会抄録はサプリメントとして発行した。いずれも電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」を、2016年第3号から2017年第2号まで、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

① 新規のガイドラインとして作成を進めてきたジストニア、単純ヘルペスウイルス脳炎および脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドラインの作成作業を進めた。

② また、2010年から2012年にかけて出版した認知症、パーキンソン、多発性硬化症/視神経脊髄炎、てんかんの各診療ガイドラインおよび神経疾患の遺伝子診断ガイドライン、5つのガイドラインの改訂版作成作業を進めた。

3 啓発活動

(1) 市民公開講座を次のとおり開催した。

第57回学術大会開催時市民公開講座

- ・ 2016年5月22日（日）徳島大学大塚講堂

(2) 広報活動

- ① 新規の事業として、会員向けのニューズレター創刊号および第2号を発行した。
- ② 新たに、認定施設が企画している医学生・研修医のためのセミナーや施設見学会等の情報を収集し、学会ホームページで紹介する事業を開始した。今後継続的に実施する予定である。
- ③ また、学会ホームページやメディカルトリビューンを利用し、学会事業の広報活動の充実に努めた。

(3) 神経内科フォーラムの活動支援

てんかんに理解を深めるシンポジウムを全国6都市で開催するなど、主に一般の方に神経内科への理解を深めてもらうための活動を支援した。

4 研究奨励

(1) 日本神経学会賞および楡林賞の受賞者を次のとおり選考した。

① 日本神経学会賞

(学術研究部門)

横浜市立大学附属病院遺伝子診療部 宮武 聡子
「ネマリンミオパチーの遺伝学的研究」

(診療部門)

・九州大学大学院医学研究院脳神経病研究施設神経内科学 吉良 潤一ら
福岡県重症神経難病ネットワーク／福岡県難病相談・支援センター
「福岡県重症神経難病ネットワーク 20年の活動」

・近畿大学医学部神経内科 楠 進
「神経内科疾患における糖脂質抗体測定」

② 楡林賞

順天堂大学大学院医学研究科神経学 服部 信孝
「パーキンソン病の発症機序の解明」

5 研究推進

(1) 将来構想の検討

将来構想委員会を中心に、「神経疾患克服に向けた研究推進の提言の見直しを行い、「神経疾患克服に向けた研究推進の提言2016」としてまとめ、関係機関等への提言活動を行った。

(2) 他団体との連携協力

神経内科学・脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学関連学会連合、そして関連する他学会等と連携・協力して活動した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第42回専門医試験を次のとおり実施した。

- ・第1次試験 2016年6月11日(土)(東京大学教養学部駒場キャンパス)
合格者数 170名
- ・第2次試験 2016年7月9日(土)(日本都市センター会館)
合格者数 164名

② 第22回専門医認定更新を実施した。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

2017年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。

② 指導医認定

2017年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2017年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。

新規認定者数 133名

認定更新者数 106名

(3) 専門医制度

① 専門医制度の改革に対応するため、内科系関連13学会協議会での協議に参加し、内科専門医制度、内科系サブスペシャルティの専門医制度について、神経内科専門医の考え方を述べつつ、意見調整を行った。

② また、神経内科領域における専門医育成のための教育・研修カリキュラムおよびプログラムの作成作業を進めた。

③ 新専門医制度への移行準備を行う一方、これまでの神経内科専門医設置と運営の経緯、現状の分析に基づく神経内科専門医の在り方を包括的に検討する必要があるところから、それを担う神経内科専門医課題検討委員会を設置した。

そして、同委員会では、会員対象のアンケート、経緯や現状に関する調査・検討を行った。本委員会検討のまとめと報告は、2017年度を予定している。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

- ① 第57回学術大会開催時に第13回生涯教育セミナー（レクチャーおよびハンズオンセミナー）を開催した。
- ② Neuromuscular Conference 共催でハンズオンセミナー「神経・筋生検」を東京医科歯科大学で実施した。
- ③ 以下の地区で生涯教育講演会を開催した。
北海道地区、東北地区、関東・甲信越地区、東海・北陸地区、近畿地区、中国・四国地区、九州・沖縄地区。

(2) 専門医育成教育事業

- ① 第57回学術大会開催時に第7回専門医育成教育セミナーを、また2016年12月11日（日）に千葉県船橋会場で第8回専門医育成教育セミナーを開催した。

(3) 教育コンテンツ配信事業

- ① 第57回学術大会時に開催する生涯教育セミナー（レクチャー）、専門医育成教育セミナーを収録し配信した（学会ホームページ会員専用ページから閲覧）。
- ② グラクソ・スミスクライン（株）が企画した「GSK 医学教育事業助成制度」に応募し採択された。その採択結果を踏まえて、具体的な実施計画を検討した。

(5) メディカルスタッフ教育事業

第57回学術大会開催時に、メディカルスタッフを対象とした教育セミナーを、開催日を2日に拡充して実施した。

(6) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師や教育用動画制作で教育活動に貢献した会員を表彰した。表彰者は、6名であった。

(7) 会員の研修支援事業の実施

会員の国内での研修を支援する事業を開始した。本年度は2名の会員を助成した。

(8) 「神経内科専門医試験問題回答と解説」の出版

主に専門医を目指す医師を対象とするが、生涯教育にも役立つことを目的としたテキスト「神経内科専門医試験問題回答と解説」を出版した。

(9) 学術大会時の教育プログラムについて

第57回学術大会時の教育プログラムの実施状況を踏まえて、第59回以降の学術大会でも継続して実施することとした。

8 診療向上のための活動

(1) 診療報酬改訂への取り組み

2018年度（平成30年度）診療報酬改訂のための準備を行った。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

神経疾患患者に対する医療の質の向上を図る一環として、必要に応じて新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行った。

9 第23回世界神経学会議（WCN2017）開催準備

WCN2017開催準備の一環として、運営に関するWFNとの調整、共催セミナーの募集、国内外への広報活動、社交プログラムの検討、参加者増を目的とした助成制度の検討など、準備活動を実施した。

10 国際協力

- ① アジア地域の神経内科医との交流を通して神経学の向上に寄与する事業を継続する。今年度はミャンマー（ヤンゴン）でハンズオンセミナーを実施した（2日間）。
- ② East Asian Neurology Forumを、第57回学術大会時に開催した。
- ③ WCN、AOANなど国際学術集会に学会員が積極的に参加を推奨する広報を行った。

11 その他の事業

① 災害支援ネットワークシステムの充実

災害発生時の対応マニュアルの作成作業を行った。2017年度に完成を予定している。

② キャリア形成促進事業

学術大会時に女性医師間の情報交換の場や展示ブースの設置、講演活動など女性を対象にした事業を実施した。また、若手女性医師による他施設訪問事業を通してキャリア継続に関する先進的取り組みを収集する活動を行った。

③ アーカイブズ資料収集・管理事業

学会の歴史に関するデータ整理を行った。

12 一般社団法人としての運営

① 代議員選挙

2017年の学術大会終了後から任期が始まる代議員の選挙を行った。

② 日本医学会連合との連携

一般社団法人日本医学会連合の活動に協力した。